

# 日本気象学会 2006年度秋季大会

会期：2006年10月25日（水）～27日（金）

会場：ウィルあいち（名古屋市東区上堅杉町1番地，<http://www.will.pref.aichi.jp/>）

大会実行委員会担当機関：名古屋地方気象台，名古屋大学，愛知教育大学，中部航空地方気象台，  
（財）日本気象協会東海支社

大会委員長：湯田憲一（名古屋地方気象台）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（ウィルあいち会議室1）  
TEL・FAX 052-971-9501（学会開催期間のみ有効）  
※大会参加者への伝言（FAXも含む）は受付付近の掲示板に掲示します。  
取次ぎはいたしませんのでご承知おき願います。

## 交通の案内

- ・「名古屋」駅から，地下鉄東山線に乗りし，「栄」駅乗換，地下鉄名城線「市役所」駅下車2番出口より東へ徒歩約10分
- ・「名古屋」駅から，地下鉄東山線に乗りし，「栄」駅下車後，名古屋鉄道「栄町」駅から瀬戸線に乗りして「東大手」駅下車南へ徒歩約8分
- ・基幹バス「市役所」下車，東へ徒歩約10分

## 会場案内図



# 大会行事予定

A会場 : ウィルホール (4階)  
 B会場 : 大会議室 (3階)  
 C会場 : セミナールーム1・2 (1階)  
 D会場 : 特別会議室 (2階)  
 ポスター会場 : 会議室4・5・6・7 (3階)

シンポジウム・各賞授与式会場 : ウィルホール (4階)

受付 : ウィルホール前 (4階)  
 大会事務局 : 会議室1 (3階)  
 懇親会 : アパホテル名古屋錦 (名古屋市中区錦3-15-30)

( ) は講演数, - - は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場
10月 25日 (水)	09:45～ 12:30	スペシャルセッション 「2005/06 年の異常な冬 について」I (12, A101～A112) -猪上 淳- -本田明治-	気候システム I (12, B101～B112) -尾瀬智昭-	熱帯大気 (11, C101～C111) -橋口典子-	大気化学・物質輸送 (10, D101～D110) -出牛 真-
	13:30～ 17:00	スペシャルセッション 「2005/06 年の異常な冬 について」II (15, A151～A165) -高谷康太郎- -中村 尚-	スペシャルセッション 「高解像度気候モデルに よる中層大気研究の 可能性」 (15, B151～B165) -河谷芳雄- -渡辺真吾-	雲物理 ( 8, C151～C158) -田尻拓也- 降水システム I ( 8, C159～C166) -川畑拓矢-	エアロゾル ( 8, D151～D158) -内山明博- 観測手法 ( 7, D159～D165) -石井昌憲-
	17:00～ 18:00	ポスター・セッション (90, P101～P190)			
10月 26日 (木)	09:30～ 12:00	気象予報 (11, A201～A211) -山根省三-	気候システム II (11, B201～B211) -渡部雅浩-	降水システム II (11, C201～C211) -岩崎博之-	気象教育 ( 2, D201～D202) -岩山隆寛- 中層大気 ( 2, D203～D204) -岩山隆寛- 大気力学 ( 6, D205～D210) -岩山隆寛-
	13:00～ 13:30	山本正野論文賞・堀内賞・奨励賞授与			
	13:40～ 15:10	山本正野論文賞・堀内賞記念講演			
	15:20～ 17:45	シンポジウム「台風 -伊勢湾台風から50年を経て-」 司会：上田 博 基調講演：村松照男, 林 泰一, 中澤哲夫, 坪木和久, 杉 正人			
	18:30～ 20:30	懇親会			
10月 27日 (金)	09:30～ 11:30	スペシャルセッション 「惑星大気の科学」I ( 9, A301～A309) -伊賀晋一-	気候システム III ( 9, B301～B309) -西森基貴-	台風 ( 8, C301～C308) -別所康太郎-	相互作用 ( 8, D301～D308) -青木輝夫-
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (90, P301～P390)			
	13:30～ 16:45	スペシャルセッション 「惑星大気の科学」II (12, A351～A362) -小高正嗣- -高橋芳幸-	気候システム IV (14, B351～B364) -馬淵和雄- -村上茂教-	スペシャルセッション 「台風災害への対応を 考える」 ( 9, C351～C359) -弘中秀治-	環境気象 ( 6, D351～D356) -近藤裕昭- 大気境界層 ( 8, D357～D364) -大塚清敏-

発表件数 : 412件 (口頭発表232, ポスター180)

口頭発表の講演・質疑時間 : 9分と3分

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail:msj06a@mri-jma.go.jp) まで

## 大会参加費・懇親会費

### 1. 支払方法

- 郵便振替による前納（用紙は「天気」6月号に添付）、または当日受付によります。

### 2. 大会参加費

- 大会参加費は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者A	8,000円	9,000円
講演者B	5,000円	6,000円
聴講者	3,000円	4,000円

- 講演者の種別：

講演者A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者B：講演者Aに該当しない講演者

- 講演件数が2件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。
- シンポジウムのみに参加する場合は、参加費は無料です。

### 3. 懇親会費

- 懇親会費は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000円	6,000円
学生	3,500円	4,500円

### 4. 前納期日

- 前納の場合は9月19日（火）までにお支払下さい。それを過ぎた場合は当日払いとなります。

### 5. その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費・懇親会費には会員・非会員の区別はありません。
- 非会員も規定の参加費・懇親会費をお支払い頂ければ大会・懇親会に会員と同様に参加することができます（ただし、非会員の大会での講演にはある条件を満たすことが必要です。詳細は「非会員による大会での継続的な講演について」をご参照下さい。）。

## 講演の方法

### 1. 口頭発表

- 1件当たりの発表時間は、講演時間9分・質疑時間3分です。
- スペシャルセッションの発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- 講演の際にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- OHPの使用を希望する場合は、必ず当該セッション開始前の休憩時間に当該会場で会場係へその旨を申し出て下さい。
- PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
  - パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
  - セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、開始前に会場係に申し出て下さい。
  - 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順を繰り下げたり、OHPによる発表に

切り替えさせて頂くことがあります。このため、最低限の発表が出来るだけのOHPシートも用意しておいて下さい。

### 2. ポスター発表

- ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦120cm × 横90cm（A0サイズを縦に貼ることができる）程度となっています。
- ポスターの掲示の際、押しピン・テープ類が使用可能です。これらは発表者自身で準備してください。
- ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。特に撤去時間については厳守願います。
  - 第1日の発表者は10月25日9:00～10月26日12:30
  - 第3日の発表者は10月26日12:30～10月27日14:00
- ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出ていたもの以外は原則として認められません。

## 保育施設の斡旋について

大会に参加される会員のために、大会実行委員会では保育施設の斡旋を行います。また、保育施設利用料の一部補助についても検討中です。利用を希望される方、あるいは情報提供を希望される方は、10月6日（金）までに下記の担当者までご連絡ください。

連絡先：伊藤 浩（名古屋地方气象台）

TEL：052-751-5124, FAX：052-752-3357, E-mail：h-itou@met.kishou.go.jp

# シンポジウム「台風－伊勢湾台風から50年を経て－」

日時：大会第2日（10月26日） 15:20～17:45

会場：ウィルホール（大会A会場）

司会：上田 博（名古屋大学地球水循環研究センター）

※シンポジウムの聴講は無料です

## 趣旨：

3年後に伊勢湾台風から50年目をむかえる。伊勢湾台風の被害が最も大きかった中部地区で日本気象学会秋季大会が行われる機会に、伊勢湾台風から50年の経過を振り返り、わが国におけるその後の防災体制の整備及び台風に関する研究の発展の現状を理解したい。

近年、大型台風の襲来と地球温暖化の関係が議論されている。被害で見た台風の理解を深め、台風の予報システムの将来について議論し、台風の構造に関する最近の研究を把握するとともに、地球温暖化によって台風が変わる可能性があるかどうかについて、議論を深める機会を提供する。

## 基調講演

- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1) 「台風防災の原点、伊勢湾台風から50年」     | 村松照男（気象業務支援センター）       |
| 2) 「台風により発生する被害の変遷」         | 林 泰一（京都大学防災研究所）        |
| 3) 「台風のための双方向予報システムの構築に向けて」 | 中澤哲夫（気象研究所台風研究部）       |
| 4) 「雲解像モデルで見た台風の構造」         | 坪木和久（名古屋大学地球水循環研究センター） |
| 5) 「温暖化で台風はどうなるか」           | 杉 正人（気象研究所予報研究部）       |

## 総合討論

---

## スペシャルセッション「2005/06年の異常な冬について」

日時：大会第1日（10月25日） 09:45～12:30, 13:30～17:00

会場：ウィルホール（大会A会場）

世話人：平沢尚彦（国立極地研究所），本田明治（地球環境フロンティア研究センター），猪上 淳（地球環境観測研究センター），高谷康太郎（地球環境フロンティア研究センター），中村 尚（東京大学理学系研究科/地球環境フロンティア研究センター）

## 趣旨：

2005年/06年の冬の天候は、極めて特徴的なものとなった。すなわち、12月を中心とする冬の前半の大寒波及び日本海側の大雪と、一転して後半の暖冬とである。冬季の極東域のこのような変動は、学術的な興味が大いのみならず、社会的な影響も非常に大きい。したがって、極東付近の冬季の変動の原因を特定、解明することは極めて重要である。このことは、冬の長期予報の精度向上にもつながると期待される。そこで、2005/06年の冬季を中心に、極東付近の冬季の変動に関する研究をまとめて発表議論する場が必須と考え、このセッションを計画した。数値モデル、予報、観測そしてデータ解析など、幅広い分野からの多数の研究者の参加を期待している。

---

## スペシャルセッション「高解像度気候モデルによる中層大気研究の可能性」

日時：大会第1日（10月25日） 13:30～17:00

会場：大会議室（大会B会場）

世話人：佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科），高橋正明（東京大学気候システム研究センター），渡辺真吾（地球環境フロンティア研究センター），富川喜弘（国立極地研究所），河谷芳雄（地球環境フロンティア研究センター）

## 趣旨：

計算技術の進歩により、気候モデルも高解像度時代を迎えた。高解像度気候モデルは、熱帯で特に重要な対流雲等小規模擾乱を再現し、これにより、主に対流圏大気気候研究の飛躍的発展が期待されている。一方、積雲と同様パラメタリゼーションにより表現されることの多かった重力波等小規模擾乱も陽に表現できるようになったことから、高解像度モデルの中層大気科学研究への応用もタイムリーであると思われる。また、大規模風速場による移流が物質分布の薄層化・混合をもたらすという従来の成層圏物質輸送・混合過程の概念は、重力波等小規模擾乱を陽に表現する高分解能モデルでも成り立つの

かどうか、明らかではない。そこで、このセッションでは、高解像度気候モデルを用いた先行研究、重力波パラメタリゼーション、ラジオゾンデや衛星等による観測事実、重力波以外の小規模擾乱の重要性などについて、レビューを中心に、新しい関連研究の発表も加え、高解像度気候モデルによる中層大気研究の可能性について議論したい。

---

## スペシャルセッション「惑星大気の科学」

日時：大会第3日（10月27日）09:30～11:30, 13:30～16:45

会場：ウィルホール（大会A会場）

世話人：中島健介（九州大学大学院理学研究院）

趣旨：

近年、金星や火星、木星などの惑星大気に関する研究に多くの進展がみられる。アメリカによる火星探査、ヨーロッパや日本による金星探査計画が実行段階にあるだけでなく、望遠鏡を用いた惑星大気の地上観測にも関心が集まっており、新たな観測事実も蓄積されつつある。この特別セッションでは、惑星大気に関する研究の現状を整理し、今後の展望を議論したい。

---

## スペシャルセッション「台風災害への対応を考える」

日時：大会第3日（10月27日）13:30～16:45

会場：セミナールーム1・2（大会C会場）

世話人：弘中秀治（日本気象予報士会）、植松久芳（日本気象予報士会）、伊藤 浩（名古屋地方気象台）、岩田 修（日本気象予報士会）、白石晶二（日本気象予報士会）

趣旨：

2004年は台風の当たり年で、過去最多の10個が本邦に上陸し、全国的に多くの被害が発生した。また、2005年に入って上陸数は比較的少なかったものの、台風0514は、記録的短時間大雨情報の基準に達しないまま各地の総雨量を多数記録更新するという、特異な台風であった。一方、北米においては、ハリケーン・カトリーナの予報はほぼ的中したにもかかわらず、未曾有の大災害が発生したことは、よく知られている。本スペシャルセッションにおいては、こうした台風について、①台風予測の実際と反省（特に災害発生が想定されるエリアの特定など）、②台風予報（警報・注意報）の発表のありかた、③台風情報の報道・伝達のありかた（伝達者側の問題点など）、④台風情報の利用・活用（利・活用者側としての問題点など）、⑤台風時の防災活動の現場の実際といった切り口での発表を募り、今後の台風防災のための研究対応について資を得ることとしたい。

---

## 研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第27回メソ気象研究会

日時：2006年10月24日（火）（大会前日）13:30～17:00

場所：ウィルあいちセミナールーム1・2（大会C会場）

テーマ：「宇宙から観る雲と雨」

コンビーナー：増永浩彦（名大地球水循環）

内容：メソスケールから総観・惑星規模にわたる雲・降水過程の階層構造の全貌を理解する上で、衛星観測は重要な研究手段の一つである。とくに、地上観測ネットワークの及ばない熱帯海洋上などの地域では、衛星モニタリングは欠かせない観測手段といえる。過去10年のあいだに、地球観測衛星史上特筆すべき画期的な進歩が相次いだ。日米協カプロジェクトである熱帯降雨観測計画（TRMM）や米国AQUA衛星が軌道に乗り、また本年4月には米国のCloudSat衛星が打ち上げられた。こういった技術革新を受け、衛星リモートセンシングによる雲・降水気象／気候学研究は大きく前進しつつある。今回のメソ気象研究会では「宇宙から観る雲と雨」と銘打ち、衛星観測研究の最前線で活躍する中堅・若手研究者を講師に招いて、地球にあまねく分布する雲・降水システムの最新像に迫りたい。また、メソ気象学と衛

星観測が共有し得る問題意識を改めて探り、今後の新しい研究の可能性を議論したい。

プログラム（講演順序および講演題目には若干の変更の可能性あり）：

- 趣旨説明  
増永浩彦（名大地球水循環）
- マイクロ波放射計による降水観測とデータ同化  
青梨和正（気象研）
- 衛星搭載降雨レーダによる潜熱加熱プロファイル推定  
重 尚一（大阪府大院工）
- 衛星搭載降雨レーダによる降水システムの地域特性  
広瀬正史（JAXA/EORC）
- CloudSat衛星と領域/全球雲解像モデル：現状と将来展望  
鈴木健太郎（東大気候システム）

総合討論

世話人：坪木和久（名大地球水循環）、加藤輝之（気象研）、小倉義光（東大海洋研）

連絡先：増永浩彦（名古屋大学地球水循環研究センター）  
E-mail：masunaga@hyarc.nagoya-u.ac.jp

## 極域・寒冷域研究連絡会

日時：2006年10月25日（水）（大会第一日）18:15～2時間程度

場所：ウィルあいちウィルホール（大会A会場）

話題：豪雪を語る

「豪雪・寒冷域研究の系譜（成果と反省）、問題点、および、今なすべきこと」 二宮洗三（FRCGC）

今回の極域・寒冷域研究連絡会は、「豪雪を語る」と題して、元気象庁長官の二宮洗三氏の講演会を行います。

2005/2006年の冬は、12月を中心に記録的に寒く、日本海側は大雪に見舞われたことはまだ記憶に新しいところです。

今冬の豪雪は20年ぶりとも言われましたが、過去には、38豪雪や56豪雪などと言われるような例もありました。そのような過去の例も含め、豪雪関係の話題を提供して頂く予定です。豪雪には、半球規模、総観規模、メソスケールの大気循環や、SST、水蒸気供給など、多様な要素が関係しています。豪雪の議論を通じて様々な分野の研究者が交流できる場を設け、気象現象の理解を深める機会にしたいと考えています。

代表：山崎孝治（北大院地球環境）

世話人：平沢尚彦（極地研）、中村 尚（東大院理）、浮田甚郎（千葉大CEReS）、高田久美子（FRCGC）、阿部彩子（東大気候システム）、佐藤 薫（東大院理）、本田明治（FRCGC）、齋藤冬樹（FRCGC）、猪上 淳（IORGC）、高谷康太郎（FRCGC）

URL：http://polaris.nipr.ac.jp/pras/coolnet/cl\_index

連絡先：高谷康太郎（FRCGC）

TEL：045-778-5526, FAX：045-778-5707,

E-mail：takaya@jamstec.go.jp

## THORPEX研究連絡会 第3回研究集会

日時：2006年10月25日（水）（大会第一日）18:00～20:00

場所：ウィルあいち大会議室（大会B会場）

テーマ：気象水文データを利用した水害予測

内容：THORPEXは、2週間先までの予測改善をめざす科学的ミッションではあるが、これまでのプロジェクトと比較して、水管理、農業、電力、交通など多様な分野への応用に力点が置かれている。例えば、西アフリカでのマラリア予測がパイロットプロジェクトとして検討されている。今回は、近年多発している水害を軽減するために、THORPEXの成果をどのように利用するか検討したい。そこで、水害予測分野で活躍されている研究者から、水害予測の現状や、THORPEXへの期待などについてお話をうかがうとともに、気象庁のアンサンブル予報についても最新の話題を提供してもらい、水害予測への確率的な気象予測の利用について議論したい。THORPEX研究連絡会としては、今後もその基礎となる気象力学の分野での研究交流を進めるとともに、社会的・経済的な応用分野にも広く視野を広げた研究会活動を進めていきたいと考えている。

プログラム（講演順序、講演題目に変更の可能性あり）

1. MPレーダ雨量情報を利用した都市型水害の予測  
真木雅之（防災科研）
2. 実用的な洪水予報と時間空間スケールについて  
立川康人（京大防災研）
3. 水文分野における実時間洪水予測について  
沖 大幹（東大生産研）
4. アンサンブル数値予報による確率的な気象予測  
～台風事例を中心として～  
経田正幸（気象庁数値予報課）

総合討論

世話人：余田成男、中澤哲夫、木本昌秀、向川均、榎本剛

連絡先：榎本剛 E-mail：eno@jamstec.go.jp,

TEL：045-778-5867, FAX：045-778-5492

## オゾン研究連絡会

日時：2006年10月25日（水）（大会第一日）セッション終了後から2時間程度

場所：ウィルあいちセミナールーム1・2（大会C会場）

内容：今回は成層圏オゾンに関連の深い以下の2件のご講演を予定しております。ご関心をお持ちの方は是非ご参集下さい。

1. 「オゾン層破壊の科学的アセスメント：2006年」とオゾン層の将来予測について

発表者：柴田清孝（気象研）

要旨：4年ごとにWMO/UNEP/NOAA/NASA/ECがスポンサーとなって発刊されるオゾン層破壊に関する科学的アセスメントの6冊目になる2006年版「オゾン層破壊の科学的アセスメント：2006年」についての簡単な紹介とそこで引用されている世界各国の化学-気候モデルによるオゾン層の将来予測について述べる。

2. JEM/SMILES の現状と展望

発表者：塩谷雅人（京大生存研）

要旨：国際宇宙ステーション（ISS）の日本実験棟（JEM）曝露部に搭載予定のSMILES（Superconducting Submillimeter-Wave Limb Emission Sounder）は、2008年度の打ち上げを目指して準備が進められている。ここではその取り組み状況と予想される科学成果について述べる。

世話人：笠井康子（NICT）、川上修司、河本 望（JAXA）、永島達也（環境研）、庭野将徳（FRCGC）、村田 功（東北大院環境科学）

連絡先：村田 功（東北大院環境科学）

TEL：022-217-5776, FAX：022-217-5775,

E-mail：murata@pat.geophys.tohoku.ac.jp

## 第1回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2006年10月25日（水）（大会第一日）18:00～20:00

場所：ウィルあいち特別会議室（大会D会場）

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を研究の主な対象とし、そこにおける物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換、陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明、直接観測、間接観測、およびモデリングの融合、空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決への方向性の探求、正確な現状の認識と、実質的に意味のある手法の開発に向けた努力、およびそれらのための研究協力関係の構築を目的としています。今回は2名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

講演者：1. Georgii Alexandrov（環境研）

2. 佐々井崇博（産総研）

世話人：馬淵和雄（気象研）、大谷義一（森林総研）、青木輝夫（気象研）、西田顕郎（筑波大）、伊藤昭彦（環境研）

代表連絡先：馬淵和雄（気象研）

TEL：029-853-8609, FAX：029-855-2552,

E-mail：kmabuchi@mri-jma.go.jp

## 公開座談会「防災気象情報をどう活かすか」

日時：2006年10月27日（金）（大会最終日）18:00～20:30

場所：ウィルあいちセミナールーム1・2（大会C会場）

副題：減災文化を定着させるために

内容：この座談会においては、気象警報類を意思決定のためにいかにブレイクダウンするか、防災情報をいかにわかりやすく伝えるか、受け手側の活用方法、気象災害から身を守るための知識の普及及び防災訓練のあり方、などの観点から、現状におけるそれぞれの問題点を列挙整理した上で、その対応策並びに住民コミュニティにおける減災文化の育成・定着について検討し、参集者の皆様の今後の研究活動の資としていただきたいと思えます。進め方としては、このテーマに関しての各種の切り口から所信を表明する5名程度のパネラーを設定し、司会者による進行の下にパネルディスカッションを行いつつ、会場参集者との意見交換を行うことを予定しています。これは、言い直せば、気象の研究成果は、防災面において、実社会にいかん反映されるべきか、反面、実用のための気象研究はいかなる点に着目して行われるべきか、などを参加者全員で考えてみようという試みでもあります。どなたでもお気軽にご参加のうえ、ご発言下さい。

世話人：植松久芳（NPO法人ウェザーフロンティア東海）、伊藤 浩（名古屋地方气象台）、弘中秀治（宇部市役所）、岩田 修（気象予報士会）、白石晶二（気象予報士会）

連絡先：白石晶二（気象予報士会）

TEL：042-375-9565（FAX共通）

Email：wxdream02@nifty.com

## 国際的な地球環境研究の動向と国内における今後の連携について－日本学術会議「IGBP/WCRP分科会」の設置を機会に－

日時：2006年10月27日（金）（大会最終日）セッション終了後から1時間程度

場所：ウィルあいち特別会議室（大会D会場）

内容：今年度、日本学術会議の改組に伴い、国際対応組織として環境学委員会に、「IGBP/WCRP分科会」が設置されました。委員会設置の経緯や今後の活動方針などについて、関連の深い気象学会会員に周知し、広く意見を伺いたく、今回の説明会を開催します。IGBP（地球圏生物圏国際協同研究計画）、WCRP（世界気候研究計画）の活動に参加されている諸氏はもとより、関心のあるすべての学会員に参加をよびかけます。

世話人代表：安成哲三（WCRP - JSC委員）

世話人：林田佐智子（WCRP/SPARC SSG委員、気象学会理事）、時岡達志（WCRP/CLIVER SSG委員）、松本淳（WCRP/GEWEX SSG委員）、大畑哲夫（WCRP/CLIC SSG委員）

---

## 講演企画委員会からのお知らせ

### 理事長学術講演の延期について

木田秀次第34期理事長による学術講演につきましては、木田理事長の体調がすぐれないために延期されることになりました。

### 非会員による大会での継続的な講演について

最近、非会員のままで継続して大会での講演を行うケースが少なからず見受けられます。特に教官との共著で講演を行う学生や院生の方が多くようですが、一般の方もおられるようです。大会での講演は気象学会会員としての貴重な権利であり、「共著者に会員がいる場合は非会員の大会での講演を認める」という規定は、あくまでも短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において一時的に講演を行う場合の特例です。これまでお願いしてきましたが、気象学会において継続的に講演を行いたい場合には会員になって頂くように強く望みます。

---

## 2007年度春季大会の予告

2007年度春季大会は、2007年5月13日（日）～16日（水）に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木）で開催される予定です。大会告示は「天気」12月号に掲載予定です。なお、春季大会の講演申し込み締め切りは2007年2月頃となる予定です。